

# スポーツ学生に対するグローバル人材の育成に関する研究

中野 敦史 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)

指導教員 佐藤 馨

キーワード：スポーツ系大学生、スポーツのグローバル化、グローバル人材、英語力

## 1. はじめに

日本の教育におけるスポーツは、21世紀のグローバル化が進展している中で、多くの問題を抱えている。そこで本研究は、スポーツを専門に学んでいる学生を対象にグローバル人材とその育成に関する意識を把握し、「グローバル＝英語力」の背後にある課題を明らかにしたいと考えた。本研究はスポーツ系の大学生が考えるグローバルな人材を明らかにし、何がスポーツのグローバル化人材に必要なのか提案することを目的とした。

## 2. グローバル人材の定義

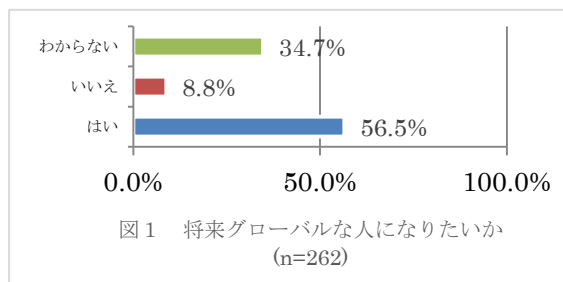
本研究では、グローバル人材を「多様な人々と共に仕事をし、英語でコミュニケーションが取れる能力のある人材」と定義する。

## 3. 研究方法

スポーツ系大学の18～24歳の283名を対象に、無記名によるアンケート調査を実施した。統計処理にはSPSSを用いた。

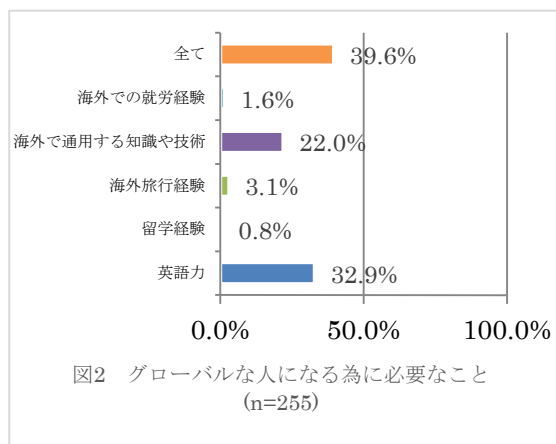
## 4. 結果および考察

調査したスポーツ系学生283人に「将来グローバルな人になりたいか」と質問したところ、半数以上の学生がグローバルな人材になることを望んでいることが分かった。その一方で4割近くの学生は明確な答えを見つけられない「わからない」「なりたくない」と答えた。こうした消極的な回答の学生は、具体的にグローバル化を理解していないため、そう答えたと思われる(図1)。



「グローバルな人材になる為に必要なことは

なにか」という問いに対しては、「全て」「英語力・海外で通用する専門知識や技術」といった回答が多かった/確かに全てが必要かもしれないが、グローバル人材の定義が曖昧なため、ここで「全て」と回答した学生が多いのではないかとと思われる(図2)。



## 5. まとめ

本研究の結果から、学生の多くがグローバル化は避けられないと考えているものの、それを直視せず自分は国内に留まってやり過ごそうとする層、経済的な問題が障壁となっている層、積極的に行動し、変化を機会に変えようとする層がいることが分かった。グローバル化において金銭的問題や英語教育の問題などは、解決しなければならない重要課題であることは間違いないが、それ以上に根本的なその人自身のグローバルに対する「意識」を変容させる必要があるように思う。また、グローバル人材とは、多様な文化を理解する事でもあるということを再認識し、その上で経済的支援の体制を充実させるべきであると考えます。

## 引用・参考文献

1) 明石康 (2015) 大学の国際化とグローバル人材育成 (特別寄稿). 益財団法人国際文化会館: 国連 4-20